

障害のあるなしにかかわらずあらゆる人が音楽に親しみ、  
創造性を発揮できる社会を実現するために

Forum

# Music for All

——— すべての人に音楽を！

パ°

めざせ！やさしさ日本代表！  
かわさきパラムーブメント



## Programme

- |        |  |
|--------|--|
| 14:00- | <b>開会挨拶</b><br>原 隆   川崎市 市民文化局オリンピック・パラリンピック推進室 室長   |
| 14:05- | <b>基調講演</b><br>アビド・フセイン   アーツカウンシル・イングランド ダイバーシティ担当ディレクター  |
| 14:25- | <b>プレゼンテーション</b><br>- Drake Music - leaders in music, disability and technology<br>ケレン・メイア   ドレイク・ミュージック 代表<br>ダリル・ビートン   ドレイク・ミュージック アソシエイト・ナショナル・マネージャー<br>アーティストック・デベロップメント |
| 15:25- | <b>プレゼンテーション - 事例紹介   障害のある人の音楽への参加</b><br>① 貝谷 嘉洋   NPO法人日本バリアフリー協会 代表理事<br>② 桐原 美砂   東京交響楽団 フランチャイズ事業本部<br>③ 中西 宣人   楽器デザイナー   |
| 15:55- | <b>パネルディスカッション</b><br>パネリスト     アビド・フセイン<br>ケレン・メイア<br>ダリル・ビートン<br>貝谷 嘉洋<br>桐原 美砂<br>中西 宣人<br>モデレーター   中村美亜   九州大学大学院芸術工学研究院 准教授   |
| 16:55- | <b>閉会挨拶</b><br>マット・バーニー   ブリティッシュ・カウンシル 駐日代表   |

Forum

# Music for All

——— すべての人に音楽を！



カルッツかわさき・アクトスタジオ

3.16. Fri 14:00 → 17:00

主催 川崎市、ブリティッシュ・カウンシル

**アビド・フセイン** Abid Hussain

アーツカウンシル・イングランド ダイバーシティ担当ディレクター

イングランドの芸術セクターの発展を担う公的機関、アーツカウンシル・イングランドのダイバーシティ担当ディレクター。平等性、多様性、インクルージョンに関する戦略を主導している。芸術機関やそのリーダーの多様性を推進するための助成プログラム「チェンジ・メーカーズ」および「エレベート」の戦略開発の指揮をとるほか、2012年のロンドン五輪を契機にスタートした障害のあるアーティストの活動を支援するプログラム「アンリミテッド」にも積極的に関与している。インターナショナル・ビジター・リーダーシップ・プログラム (IVLP) 修了生、英米の文化・社会・教育的交流を推進するジョン・アダムズ・ソサイエティのメンバーでもあり、これまでヨーロッパ、東アジア、南アフリカ、ニュージーランド、北米など各地での国際会議でも登壇している。

**ケレン・メイヤ** Carien Meijer

ドレイク・ミュージック 代表

テクノロジーも活用し、障害のあるなしに関わらず、すべての人にとって音楽がオープンで、インクルーシブで、アクセシブルであることを目指して活動している英国の芸術団体、ドレイク・ミュージックの代表。数多くのアーティスト、音楽家、芸術機関、ボランティア団体などとプロジェクトを展開し、2006年より代表としてドレイク・ミュージックに参加。以来、オーケストラやコンサートホールなど芸術機関に対するアクセシビリティ・トレーニングやコンサルティング、教育プログラム、障害のある音楽家を支援するアクセシブル音楽テクノロジーの開発などドレイク・ミュージックの多様なプロジェクトを主導している。

**ダレル・ビートン** Daryl Beeton

ドレイク・ミュージック アソシエイト・ナショナル・マネージャー (アーティストック・デベロップメント)

舞台芸術分野で、障害のある人や若者を対象とした芸術活動に長年従事してきた。2006年から約10年間、若者のための劇団、Kazzumで芸術監督を務め、2013年には長年に渡る青少年のための活動が認められAction for Children's Arts Members Awardを受賞。2012年のロンドンパラリンピック競技大会のオープニングセレモニーにパフォーマーとして参加。現在、ドレイク・ミュージックでの活動以外に、グレイアイ・シアター・カンパニーのアソシエイトディレクターとして舞台に立つほか、フリーランスの舞台アーティストとして英国内外で活動している。

**貝谷 嘉洋** かいや よしひろ

NPO法人日本バリアフリー協会 代表理事

1970年岐阜県生まれ。10歳のときに筋ジストロフィーと診断され、14歳で自力歩行不能となる。93年関西学院大学卒業後アメリカに単身渡る。99年カリフォルニア大学バークレイ校ゴールドマン政策大学院修了。2000年にジョイスティック車によるアメリカ一周を敢行したのちに帰国し、同車で初の新規運転免許取得。01年NPO法人日本バリアフリー協会を設立。05年上智大学博士後期課程修了。障がい者の音楽コンテスト「ゴールドコンサート」を主催しながら、執筆活動、講演などを行っている。

**桐原 美砂** きりはら みさ

東京交響楽団 フランチャイズ事業本部

1974年生まれ。東京出身。国際基督教大学卒業後、音楽事務所に3年ほど勤務。2007年より新日本フィルハーモニー交響楽団にて、小学校・中学校・福祉施設での鑑賞型アウトリーチをはじめとした地域プログラムを担当。2013年オーケストラ・ホール関係者向け英国派遣プログラムに参加、以来オーケストラメンバーによる音楽作りワークショップの制作・活動に関わる。2016年より東京交響楽団に在籍。アウトリーチを含むオーケストラのコミュニティ活動、公演制作、音楽ワークショップなどのコーディネートを担当。

**中西 宣人** なかにし よしひと

楽器デザイナー

1987年生まれ。楽器デザイナー。博士(学際情報学)。日本大学芸術学部音楽学科情報音楽コースを卒業後、東京大学大学院学際情報学府に入学し、多様な奏法に対応する音楽インタフェースやデジタル楽器の開発と研究に従事。「The Cell Music Gear」、「B.O.M.B.」、「POWDER BOX」など開発したデジタル楽器が、Asia Digital Art Award 優秀賞、電子工作コンテスト 優秀賞、Laval Virtual ReVolution "Residence"などに選出されている。現在は、センサー開発企業や教育機関とのデジタル楽器の共同開発、開発した楽器を用いた演奏活動を国内外で行うなど、音と音楽を中心として多角的に活動している。日本大学芸術学部 研究員/非常勤講師、東京工芸大学 芸術学部 非常勤講師。

**中村 美亜** なかむら みあ

九州大学大学院芸術工学研究院 准教授

専門は芸術社会学。芸術活動が人や社会に及ぼすプロセスや仕組みに関する研究、また、その知見を生かした文化政策に関する提案を行っている。東京藝術大学卒業後、アメリカのミシガン大学、ワシントン大学セントルイス等で音楽学や文化研究などを学ぶ。学術博士(東京藝術大学)。著書に『音楽をひらく—アート・ケア・文化のトリロジー』(水声社、2013年)など。ジェンダーやセクシュリティに関する著作も多い。東京藝術大学助教などを経て、2014年4月より現職。九州大学ソーシャルアトラボ副ラボ長。共創学会理事。

